ZENworks Linux Management マイグレーションガイド

Novell®
ZENworks® 11

11

2011 年 1 月 5 日

www.novell.com

保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っていません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っていません。また、ノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の下で提供される製品または技術情報はすべて、米国の輸出規制および他国の商法の制限を受けます。お客様は、すべての輸出規制を遵守し、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出に関する詳細については、Novell International Trade Services の Web ページ (http://www.novell.com/info/exports/) を参照してください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2011 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U.S.A.
www.novell.com

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、Novell マニュアルの Web ページ (http://www.novell.com/documentation/zenworks11/) を参照してください。

Novell の商標

Novell の商標一覧については、「商標とサービスの一覧 (http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

サードパーティ資料

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。

目次

このガイドについて 7

1 マイグレーションユーティリティのインストール 9

1.1 ソフトウェアの必要条件 9
1.2 マイグレーションプロセス 9
1.3 マイグレーションユーティリティのダウンロード 10

2 データの移行 11

2.1 バンドルの移行準備 - プレブートバンドル以外 11
2.1.1 Linux 上でのバンドルマイグレーションの前提条件 11
2.1.2 Windows 上でのバンドルマイグレーションの前提条件 12
2.2 プレブートバンドルの移行準備 12
2.2.1 Linux 上でプレブートバンドルを移行する前提条件 13
2.2.2 Windows 上でプレブートバンドルを移行する前提条件 15
2.3 マイグレーションユーティリティの起動 17
2.3.1 Windows でのユーティリティの起動 17
2.3.2 Linux でのユーティリティの起動 17
2.4 マイグレーションコンソールの理解 17
2.4.1 マイグレーションタスク 18
2.4.2 マイグレーション項目 18
2.4.3 マイグレーション初期設定 20
2.4.4 マイグレーションログ / マイグレーション履歴 20
2.4.5 マイグレーションキュー 20
2.5 データの移行 20
2.5.1 マイグレーションソースの選択 20
2.5.2 マイグレーション先の選択 21
2.5.3 オブジェクトのマイグレート 22
2.6 マイグレーション進行状況の監視 27
2.6.1 ［マイグレーションログ］タブ 27
2.6.2 ［マイグレーション履歴］タブ 27
2.7 マイグレーションのキャンセル 27

3 マイグレーション初期設定 29

3.1 全般 29
3.2 バンドル 30
3.3 デバイス 30
3.4 プレブート 31
3.5 ポリシー 32

このガイドについて

Novell ZENworks 11 Linux Management Migration Utility を使用すると、ZENworks Linux Management から ZENworks 11 にデータを移行できます。

このガイドは、マイグレーションプロセスの理解に役立つ情報と、プロセスの実行手順を提供します。

このガイドの情報は、次のように構成されます。

- 9 ページの第 1 章「マイグレーションユーティリティのインストール」
- 11 ページの第 2 章「データの移行」
- 29 ページの第 3 章「マイグレーション初期設定」

対象読者

このガイドは、ZENworks 管理者を対象としています。

フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または Novell Documentation Feedback サイト (http://www.novell.com/documentation/feedback.html) にアクセスして、ご意見をお寄せください。

マニュアルの更新

『*ZENworks 11 Linux Management マイグレーションガイド*』の最新バージョンについては、ZENworks Linux Management Migration のオンラインマニュアル (http://www.novell.com/documentation/zenworks11/index.html) にアクセスしてください。

その他のマニュアル

ZENworks Linux Management Migration Utility には、製品に関する情報や製品の実装方法について参照できる他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式) が用意されています。ZENworks Linux Management Migration のオンラインマニュアル (http://www.novell.com/documentation/zenworks11/index.html) を参照してください。

マイグレーションユーティリティのインストール 1

ZENworks Linux Management Migration Utility は、ZENworks 7.2 Linux Management with IR2 以上から ZENworks 11 にデータを移行するために使用します。マイグレーションを実際に実行する前にマイグレーションプロジェクトをパターン化できます。これによって、マイグレーションプロセスの中断を回避し、エラーを修正できます。

このマイグレーションユーティリティは、次のデータ (ZENworks 7.2 Linux Management with IR2 以上のサーバで定義されている) を移行するために使用します。

- バンドル
- ポリシー
- デバイス
- 課題
- 設定

マイグレーションプロセスは、ZENworks Linux Management サーバおよび ZENworks 11 サーバによって使用されるデータベースから独立しています。

次の各セクションでは、ZENworks Linux Management Migration Utility を使用して ZENworks Linux Management からデータを移行する方法について説明します。

- 9 ページのセクション 1.1「ソフトウェアの必要条件」
- 9 ページのセクション 1.2「マイグレーションプロセス」
- 10 ページのセクション 1.3「マイグレーションユーティリティのダウンロード」

1.1 ソフトウェアの必要条件

ZENworks Linux Management Migration Utility は、Java Runtime Environment 1.5 以上と Perl 5.8 以上がインストールされた Windows デバイスか、または Java Runtime Environment 1.5 以上がインストールされた Linux デバイスで実行できます。

1.2 マイグレーションプロセス

マイグレーションプロセスは、次の手順で構成されます。

1. マイグレーションユーティリティをインストールする。詳細については、10 ページのセクション 1.3「マイグレーションユーティリティのダウンロード」を参照してください。
2. マイグレーションの前に、ソースデータベースとあて先データベースの両方をバックアップする。
3. マイグレーションソースを選択する。詳細については、20 ページのセクション 2.5.1「マイグレーションソースの選択」を参照してください。
4. マイグレーション先を選択する。詳細については、21 ページのセクション 2.5.2「マイグレーション先の選択」を参照してください。

5. 移行するオブジェクトを選択する。詳細については、22 ページのセクション 2.5.3「オブジェクトのマイグレート」を参照してください。
6. マイグレーションを開始する。

   マイグレーションは、移行するデータのサイズよって、完了まで数時間かかる場合があります。詳細については、22 ページのセクション 2.5.3「オブジェクトのマイグレート」を参照してください。

1.3 マイグレーションユーティリティのダウンロード

1 Web ブラウザを使用して、ZENworks Linux Management Migration Utility を、次の場所の 1 つから一時的に適当な場所にダウンロードします。

   ZENworks ダウンロードページ： http://zenworks_primary_server_id/zenworks-setup/?pageId=tools に移動し、zlmmigration.zip をクリックします。このユーティリティをダウンロードできる Novell ダウンロードサイトのページに自動的にリダイレクトされます。

   Novell ダウンロードサイト： http://download.novell.com/ に移動し、ZENworks Linux Management Migration Utility を検索してダウンロードします。

2 コンテンツを解凍してい一時フォルダに入れます。

   run-migration.bat ファイルと run-migration.sh ファイルは、このフォルダ内で使用できます。

3 11 ページの第 2 章「データの移行」に進みます。

データの移行 2

この章では、データを移行するための手順を詳しく説明します。

- 11 ページのセクション 2.1「バンドルの移行準備 - プレブートバンドル以外」
- 12 ページのセクション 2.2「プレブートバンドルの移行準備」
- 17 ページのセクション 2.3「マイグレーションユーティリティの起動」
- 17 ページのセクション 2.4「マイグレーションコンソールの理解」
- 20 ページのセクション 2.5「データの移行」
- 27 ページのセクション 2.6「マイグレーション進行状況の監視」
- 27 ページのセクション 2.7「マイグレーションのキャンセル」

2.1 バンドルの移行準備 - プレブートバンドル以外

次の各セクションは、プレブートバンドル以外のバンドルオブジェクトを移行する場合のみ参照してください。プレブートバンドルを移行する場合は、12 ページのセクション 2.2「プレブートバンドルの移行準備」を参照してください。バンドルオブジェクトを移行しない場合は、17 ページのセクション 2.3「マイグレーションユーティリティの起動」までスキップします。

- 11 ページのセクション 2.1.1「Linux 上でのバンドルマイグレーションの前提条件」
- 12 ページのセクション 2.1.2「Windows 上でのバンドルマイグレーションの前提条件」

2.1.1 Linux 上でのバンドルマイグレーションの前提条件

Linux デバイスにインストールされた ZENworks Linux Management Migration Utility を使用して、プレブートバンドル以外の ZENworks Linux Management バンドルを ZENworks 11 に移行する場合は、次の各タスクを実行してから、バンドルを移行する必要があります。

1. ソースデータベースとあて先データベースの両方をバックアップします。

   オブジェクトは、一回だけ移行できます。

2. ZENworks Linux Management サーバにあるパッケージリポジトリのディレクトリにアクセスします。

   2a 次の行を付加して /etc/exports ファイルを編集することにより、ZENworks Linux Management サーバ上のパッケージリポジトリディレクトリで NFS 共有を実行します。

   ```
   /var/opt/novell/zenworks/pkg-repo *(ro,sync)
   ```

   2b /etc/exports ファイルを保存します。

   2c /etc/init.d/nfsserver start コマンドを使用して、NFS サーバを起動します。

   2d showmount -e *zlm_server_id* コマンドを使用して、パッケージリポジトリのディレクトリが共有されているかどうか検証します。

3. ユーティリティがインストールされているデバイスで、e mkdir -p コマンドを使用して pkg-repo ディレクトリを作成します。

パッケージリポジトリディレクトリをマウントするデフォルトの場所は、/mnt/zlm です。

ただし、別の場所を指定してパッケージリポジトリディレクトリをマウントすることもできます。この場所は、必ずアーカイブしてください。［マイグレーション初期設定］ページにあるバンドル設定［*マウントされた ZLM パッケージリポジトリパス*］の値として、この場所を指定する必要があるからです

たとえば、デフォルトの場所 /mnt/zlm の下にパッケージリポジトリのディレクトリを作成するには、次のコマンドを使用します。

mkdir -p /mnt/zlm/pkg-repo

4 次のコマンドを使用して、共有される pkg-repo ディレクトリを、デバイス上で作成したディレクトリにマウントします。

mount *zlm_server_ip_address*:/var/opt/novell/zenworks/pkg-repo /mnt/zlm/pkg-repo/

2.1.2 Windows 上でのバンドルマイグレーションの前提条件

Windows デバイスにインストールされた ZENworks Linux Management Migration Utility を使用して、プレブートバンドル以外の ZENworks Linux Management バンドルを ZENworks 11 に移行する場合は、次のタスクを実行してから、バンドルを移行する必要があります。

1 ZENworks Linux Management サーバにあるパッケージリポジトリのディレクトリにアクセスします。

2 ZENworks Linux Management サーバにあるパッケージリポジトリのディレクトリで Samba 共有を実行します。

2a /etc/samba/smb.conf ファイルを編集し、次の情報を付加します。

```
[pkg-repo]
comment = All users
path = /var/opt/novell/zenworks/pkg-repo/
read only = No
create mask = 0775
directory mask = 0775
```

2b smbpasswd -a test コマンドを実行して、パスワードを指定します。

2c /etc/init.d/smb start コマンドを使用して、Samba サービスを開始します。

3 ユーティリティがインストールされたデバイスで、［*マイコンピュータ*］>［*ツール*］>［*ネットワークドライブのマッピング*］の順にクリックします。

4 ZENworks Linux Management サーバの詳細情報とパッケージリポジトリのパスを指定します。

例 : *ZLM_Server_IP_address*\pkg-repo

2.2 プレブートバンドルの移行準備

次の各セクションは、プレブートバンドルオブジェクトを移行する場合のみ参照してください。

- 13 ページのセクション 2.2.1「Linux 上でプレブートバンドルを移行する前提条件」
- 15 ページのセクション 2.2.2「Windows 上でプレブートバンドルを移行する前提条件」

バンドルオブジェクトを移行しない場合は、17 ページのセクション 2.3「マイグレーションユーティリティの起動」までスキップします。

2.2.1 Linux 上でプレブートバンドルを移行する前提条件

Linux デバイスにインストールされた ZENworks Linux Management Migration Utility を使用して、ZENworks Linux Management プレブートバンドルを ZENworks 11 に移行する場合は、次のタスクを実行してから、バンドルを移行する必要があります。

1 ソースデータベースとあて先データベースの両方をバックアップします。

オブジェクトは、一回だけ移行できます。

2 (条件付き)ZENworks イメージ、マルチキャストイメージセット、または DellDTK Configuration バンドルを移行する場合は、次のタスクを実行します。

2a ZENworks Linux Management Migration Utility をインストールし、実行しているデバイスに、ZENworks Linux Management イメージリポジトリをマウントします。

2a1 ZENworks Linux Management サーバにあるイメージリポジトリディレクトリにアクセスします。

2a2 次の行を付加して /etc/exports ファイルを編集することにより、イメージリポジトリディレクトリで NFS 共有を実行します。

```
/zlm_image_repo_path *(ro,sync)
```

2a3 /etc/exports ファイルを保存します。

2a4 /etc/init.d/nfsserver start コマンドを使用して、NFS サーバを起動します。

2a5 showmount -e *zlm_server_id* コマンドを使用して、イメージリポジトリディレクトリが共有されているかどうか検証します。

2a6 ユーティリティがインストールされているデバイスで、次のコマンドを使用して zlm_image_repo ディレクトリを作成します。

mkdir -p */complete_path_of_the_new_directory_to_be_created/ new_directory_name_to_be_created*

イメージリポジトリディレクトリをマウントする場所は、デフォルトでは /mnt/zlm_images です。ただし、別の場所を指定してパッケージリポジトリディレクトリをマウントすることもできます。この場所は、必ずアーカイブしてください。ZENworks Linux Management Migration Utility の［*プレブート*］ページにあるバンドル初期設定［*マウントされた ZLM イメージリポジトリパス*］の値として指定する必要があります。

デフォルトの場所 /mnt/zlm_images にディレクトリ zlm_image_repo を作成するには、次のコマンドを使用します。

mkdir -p /mnt/zlm_images/zlm_image_repo

2a7 次のコマンドを使用して、デバイス上に作成したディレクトリに共有ディレクトリ zlm_image_repo をマウントします。

mount *zlm_server_ip_address:*/zlm_image_repo_path/ /mnt/zlm_images/zlm_image_repo

2b ZENworks Linux Management Migration Utility をインストールし、実行しているデバイスに、ZENworks Configuration Management イメージリポジトリをマウントします。

2b1 ZENworks Configuration Management サーバ上のイメージリポジトリディレクトリにアクセスします。

2b2 次の行を /etc/exports に追加して NFS 共有を実行することにより、ZENworks Configuration Management の content-repo ディレクトリを共有します。

```
/var/opt/novell/zenworks/content-repo/ *(ro.sync)
```

この場所は、必ずアーカイブしてください。ZENworks Linux Management Migration Utility の［*プレブート*］ページにあるバンドル初期設定［*マウントされた ZCM イメージリポジトリパス*］の値として指定する必要があります。

3 (条件付き)AutoYaST、Kickstart、または DellDTK Configuration バンドルを移行する場合は、次のタスクを実行します。

3a ZENworks Linux Management Migration Utility をインストールし、実行しているデバイスに、ZENworks Linux Management TFTP ディレクトリをマウントします。

3a1 ZENworks Linux Management サーバ上の ZENworks Linux Management TFTP ディレクトリにアクセスします。

3a2 次の行を付加して /etc/exports ファイルを編集することにより、TFTP ディレクトリで NFS 共有を実行します。

```
/srv/tftp *(ro,sync)
```

3a3 /etc/exports ファイルを保存します。

3a4 /etc/init.d/nfsserver start コマンドを使用して、NFS サーバを起動します。

3a5 showmount -e *zlm_server_ip* コマンドを使用して、TFTP ディレクトリが共有されているかどうか検証します。

3a6 ユーティリティがインストールされているデバイスで、次のコマンドを使用して zlm_tftp_repo ディレクトリを作成します。

mkdir -p */complete_path_of_the_new_directory_to_be_created/ new_directory_name_to_be_created*

TFTP ディレクトリをマウントする場所は、デフォルトでは /mnt/zlm_tftp です。ただし、TFTP ディレクトリをマウントする別の場所を指定することもできます。この場所は、必ずアーカイブしてください。ZENworks Linux Management Migration Utility の［*プレブート*］ページにあるバンドル初期設定［*マウントされた ZLM TFTP フォルダ*］の値として指定する必要があります。

デフォルトの場所 /mnt/zlm_tftp にディレクトリ zlm_tftp_repo を作成するには、次のコマンドを使用します。

mkdir -p /mnt/zlm_tftp/zlm_tftp_repo

3a7 次のコマンドを使用して、デバイス上に作成したディレクトリに共有ディレクトリ zlm_tftp_repo をマウントします。

mount *zlm_server_ip_address*:/srv/tftp/ /mnt/zlm_tftp

3b ZENworks Linux Management Migration Utility をインストールし、実行しているデバイスに、ZENworks Configuration Management TFTP ディレクトリをマウントします。

3b1 ZENworks Configuration Management サーバ上の TFTP ディレクトリにアクセスします。

3b2 次の行を /etc/exports に追加して NFS 共有を実行することによって、ZENworks Configuration Management の TFTP ディレクトリを共有します。

```
/srv/tftp/ *(ro.sync)
```

この場所は、必ずアーカイブしてください。ZENworks Linux Management Migration Utility の［*プレブート*］ページにあるバンドル初期設定［*マウントされた ZCM TFTP フォルダ*］の値として指定する必要があります。

2.2.2 Windows 上でプレブートバンドルを移行する前提条件

Windows デバイスにインストールされた ZENworks Linux Management Migration Utility を使用して、ZENworks Linux Management プレブートバンドルを ZENworks 11 に移行する場合は、次のタスクを実行してから、バンドルを移行する必要があります。

1 ソースデータベースとあて先データベースの両方をバックアップします。

オブジェクトは、一回だけ移行できます。

2 (条件付き)ZENworks イメージ、マルチキャストイメージセット、または DellDTK Configuration バンドルを移行する場合は、次のタスクを実行します。

2a ZENworks Linux Management Migration Utility をインストールし、実行しているデバイスに、ZENworks Linux Management イメージリポジトリをマウントします。

2a1 ZENworks Linux Management サーバにあるイメージリポジトリディレクトリにアクセスします。

2a2 ZENworks Linux Management サーバにあるパッケージリポジトリのディレクトリで Samba 共有を実行します。

2a2a/etc/samba/smb.conf ファイルを編集し、次の情報を付加します。

```
[zlm-images]
comment = All users
path = /zlm_image_repo_path
read only = No
create mask = 0775
directory mask = 0775
```

2a2bsmbpasswd -a test コマンドを実行して、パスワードを指定します。

2a2c/etc/init.d/smb start コマンドを使用して、Samba サービスを開始します。

2a3 ユーティリティがインストールされたデバイスで、［*マイコンピュータ*］>［*ツール*］>［*ネットワークドライブのマッピング*］の順にクリックします。

2a4 ZENworks Linux Management サーバの詳細情報とパッケージリポジトリのパスを指定します。

例 : *ZLM_Server_IP_address*\zlm-images

この場所は、必ずアーカイブしてください。ZENworks Linux Management Migration Utility の［*プレブート*］ページにあるバンドル初期設定［*マウントされた ZLM イメージリポジトリパス*］の値として指定する必要があります。

2b ZENworks Linux Management Migration Utility をインストールし、実行しているデバイスに、ZENworks Configuration Management イメージリポジトリをマウントします。

2b1 ZENworks Configuration Management サーバ上のイメージリポジトリディレクトリにアクセスします。

2b2 ZENworks Configuration Management の %ZENWORKS_HOME%zenworks\work\content-repo\ ディレクトリを共有します。

この場所は、必ずアーカイブしてください。ZENworks Linux Management Migration Utility の［*プレブート*］ページにあるバンドル初期設定［*マウントされた ZCM イメージリポジトリパス*］の値として指定する必要があります。

3 (条件付き)AutoYaST、Kickstart、または DellDTK Configuration バンドルを移行する場合は、次のタスクを実行します。

3a ZENworks Linux Management Migration Utility をインストールし、実行しているデバイスに、ZENworks Linux Management TFTP ディレクトリをマウントします。

3a1 ZENworks Linux Management サーバ上の ZENworks Linux Management TFTP ディレクトリにアクセスします。

3a2 ZENworks Linux Management サーバにある TFTP ディレクトリで Samba 共有を実行します。

3a2a/etc/samba/smb.conf ファイルを編集し、次の情報を付加します。

```
[zlm-tftp]
comment = All users
path = /srv/tftp
read only = No
create mask = 0775
directory mask = 0775
```

3a2bsmbpasswd -a test コマンドを実行して、パスワードを指定します。

3a2c/etc/init.d/smb start コマンドを使用して、Samba サービスを開始します。

3a3 ユーティリティがインストールされたデバイスで、［*マイコンピュータ*］>［*ツール*］>［*ネットワークドライブのマッピング*］の順にクリックします。

3a4 ZENworks Linux Management サーバの詳細情報とパッケージリポジトリのパスを指定します。

例 : *ZLM_Server_IP_address*\zlm-tftp

この場所は、必ずアーカイブしてください。ZENworks Linux Management Migration Utility の［*プレブート*］ページにあるバンドル初期設定［*マウントされた ZLM TFTP フォルダ*］の値として指定する必要があります。

3b ZENworks Linux Management Migration Utility をインストールし、実行しているデバイスに、ZENworks Configuration Management TFTP ディレクトリをマウントします。

3b1 ZENworks Configuration Management サーバ上の TFTP ディレクトリにアクセスします。

3b2 ZENworks Configuration Management の %ZENWORKS_HOME%\zenworks\share\tftp\ ディレクトリを共有します。

この場所は、必ずアーカイブしてください。ZENworks Linux Management Migration Utility の［*プレブート*］ページにあるバンドル初期設定［*マウントされた ZCM TFTP フォルダ*］の値として指定する必要があります。

2.3 マイグレーションユーティリティの起動

中国または日本のロケールでマイグレーションユーティリティを開始する場合は、ユーティリティの起動前に、任意の ZENworks 11 管理対象デバイスから /opt/novell/zenworks/share/zmd/java/lib/fonts/fallback ディレクトリを、Java パスの下にある lib/fonts ディレクトリにコピーする必要があります。

次のセクションを確認してから、マイグレーションユーティリティを開始してください。

- 17 ページのセクション 2.3.1「Windows でのユーティリティの起動」
- 17 ページのセクション 2.3.2「Linux でのユーティリティの起動」

2.3.1 Windows でのユーティリティの起動

1. run-migration.bat ファイルをダブルクリックします。このファイルは、ユーティリティをダウンロードしたフォルダにあります。

   詳細については、10 ページのセクション 1.3「マイグレーションユーティリティのダウンロード」を参照してください。

注 : ユーティリティが実行されない場合は、ユーティリティをダウンロードしたフォルダから .migration.pid ファイルを削除してから、ユーティリティを起動します。

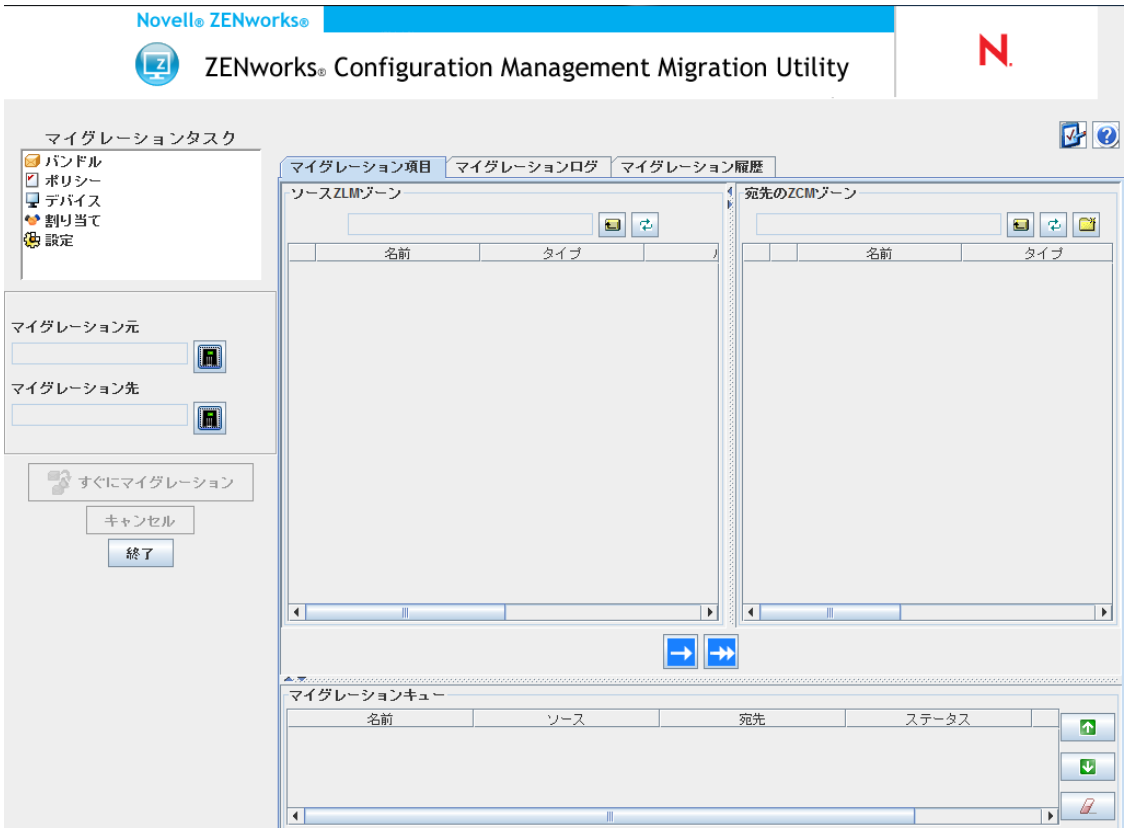
2.3.2 Linux でのユーティリティの起動

1. マイグレーションユーティリティをインストールしたディレクトリに移動します。
2. chmod +x run-migration.sh コマンドを実行して、マイグレーションユーティリティに実行許可を与えます。
3. コマンド sh ./run-migration.sh を実行します。このファイルは、ユーティリティをダウンロードしたフォルダにあります。

   詳細については、10 ページのセクション 1.3「マイグレーションユーティリティのダウンロード」を参照してください。

2.4 マイグレーションコンソールの理解

次の［ZENworks Linux Management Migration Utility］ページは、標準ビューを表しています。



- 18 ページのセクション 2.4.1「マイグレーションタスク」
- 18 ページのセクション 2.4.2「マイグレーション項目」
- 20 ページのセクション 2.4.3「マイグレーション初期設定」
- 20 ページのセクション 2.4.4「マイグレーションログ / マイグレーション履歴」
- 20 ページのセクション 2.4.5「マイグレーションキュー」

2.4.1 マイグレーションタスク

移行できるデータにはいくつかのタイプがあります。すべてのタイプを 1 つセッションで移行するか、複数のセッションで移行するか選択できます。

［*マイグレーションタスク*］フィールドに表示されるオプションは、［*マイグレーション項目*］タブに表示される内容を決定するフィルタです。

2.4.2 マイグレーション項目

マイグレーションコンソールの［*マイグレーション項目*］タブには、［ソース ZLM ゾーン］パネルと［宛先の ZCM ゾーン］パネルが表示されます。

マイグレーションタスクを選択すると、［*マイグレーション項目*］タブの 2 つのパネル (［ソース ZLM ゾーン］と［宛先の ZCM ゾーン］) でフィールド (およびそのデータ) が適宜変更されます。たとえば、［*バンドル*］を選択すると、バンドルに適用できるパス、フィールド、データのみが両方のパネルに表示されます。［ソース ZLM ゾーン］パネル

には、バンドルツリーに存在するオブジェクトが表示されます。［宛先の ZCM ゾーン］パネルには、現在、ZENworks データベースに存在するオブジェクトが表示されます。このゾーンは、ZENworks コントロールセンターで表示できます。

- 19 ページの 「ソース ZLM ゾーンの理解」
- 19 ページの 「あて先 ZCM ゾーンの理解」

ソース ZLM ゾーンの理解

［ソース ZLM ゾーン］パネルには、選択したタスクのすべてのオブジェクトが表示されます。たとえば、マイグレーションタスクとして［*バンドル*］を選択した場合は、バンドルオブジェクトだけが表示されます。

［*ソース ZLM ゾーン*］フィールドには、選択したオブジェクトの完全なパスが表示されます。

［ソース ZLM ゾーン］パネルには次のアイコンも表示され、マイグレーションに関するデータの表示に利用できます。

	1 階層上に移動 : 現在のコンテキストから 1 階層上へフォーカスを移動します。
	更新 : ビューを更新します。たとえば、まず［*バンドル*］をクリックすると、マイグレーションタスクの現在の状態が表示されます。その後、バンドルに変更が行われた場合は、［*更新*］をクリックすると、それらの変更をマイグレーションユーティリティ内にキャプチャできます。

あて先 ZCM ゾーンの理解

［宛先の ZCM ゾーン］パネルでは、移行する項目は斜体で表示され、もともと ZENworks コントロールセンターで作成された項目には、オブジェクトの横にロックが付きます。これらのオブジェクトは、ZENworks コントロールセンターからのみ削除可能で、マイグレーションユーティリティでは削除できません。また、［宛先の ZCM ゾーン］パネルからは移行した項目も削除できます。その場合、その項目は ZENworks データベースから削除されるため、ZENworks コントロールセンターでは表示されなくなります。

［*宛先の ZCM ゾーン*］フィールドには、管理ゾーン内の移行されたオブジェクトの、選択されたあて先の完全なパスが表示されます。デフォルトの場所が表示されます。

［宛先の ZCM ゾーン］パネルには、次のアイコンも表示され、マイグレーションの変更やデータの表示に利用できます。

	1 階層上に移動 : 現在のフォルダから 1 階層上へフォーカスを移動します。
	更新 : ビューを更新します。たとえば、最初に［*バンドル*］をクリックすると、ゾーンの現在の状態が表示されます。その後、ゾーンに変更を加えた場合は、［*更新*］をクリックして、マイグレーションユーティリティでそれらを更新します。
	新規フォルダの作成 : 管理ニーズに合うように新しいフォルダを追加して、ZENworks コントロールセンターで表示される環境設定管理フォルダの構造を変更することも可能です。たとえば、/~bundles~ の下にフォルダ (Files など) を追加した場合、Files フォルダが ZENworks コントロールセンターの［*バンドル*］の下に表示されます。Files フォルダには、このフォルダにコピーしたオブジェクト用に作成されたすべてのバンドルが格納されます。

✕	**選択した項目を削除する：**リストと ZENworks Configuration Management サーバから、選択したオブジェクトを削除します。横にロックの付いたオブジェクトは、もともと ZENworks コントロールセンターで作成されたオブジェクトであり、マイグレーションユーティリティを使用して削除することはできません。移行されたオブジェクトを選択する場合は、［*選択した項目を削除する*］アイコンをクリックしてその項目を ZENworks データベースから削除します。削除した項目は、ZENworks コントロールセンターでは表示できなくなります。

2.4.3 マイグレーション初期設定

アイコンを使用すると、［マイグレーション初期設定］ダイアログボックスが表示され、マイグレーションの設定を指定できます。使用可能な特定の設定については、29 ページの第 3 章「マイグレーション初期設定」を参照してください。

2.4.4 マイグレーションログ / マイグレーション履歴

［*マイグレーションログ*］タブと［*マイグレーション履歴*］タブでは、マイグレーションの進行状況を監視できます。これらのタブの詳細については、27 ページのセクション 2.6「マイグレーション進行状況の監視」を参照してください。

2.4.5 マイグレーションキュー

このパネルは、コンソールウィンドウの下部にあり、マイグレーション用に選択されたオブジェクトを表示します。

［マイグレーションキュー］パネルでは、次のアイコンでマイグレーションを変更することもできます。

	選択したオブジェクトをキュー内で 1 ライン上へ移動します。
	選択したオブジェクトをキュー内で 1 ライン下へ移動します。
	選択したオブジェクトをキューから削除します。オブジェクトが移行されていない場合、オブジェクトは、［宛先の ZCM ゾーン］パネルからも削除されます。

2.5 データの移行

次のタスクを一覧の順序で実行して、データを移行します。

- 20 ページのセクション 2.5.1「マイグレーションソースの選択」
- 21 ページのセクション 2.5.2「マイグレーション先の選択」
- 22 ページのセクション 2.5.3「オブジェクトのマイグレート」

2.5.1 マイグレーションソースの選択

ZENworks Linux Management サーバをマイグレーション元とします。サーバにログインするには：

1 マイグレーションユーティリティを起動する。

ユーティリティの起動方法の詳細については、17 ページのセクション 2.3「マイグレーションユーティリティの起動」を参照してください。

2 マイグレーションコンソールで、［*マイグレーション元*］フィールドの横にあるボタンをクリックします。

3 次のフィールドに入力します。

ゾーン : 管理ゾーンを指定します。これがマイグレーションコンソールを使用してこのゾーンにログインした初回である場合は、なにも表示されません。その後、このダイアログボックスを使用してログインしたゾーンは、ドロップダウンリストに表示されます。

サーバ (DNS 名または IP アドレス): DNS 名または IP アドレスを指定します。このフィールドは、管理ゾーンを［*ゾーン*］フィールドで選択する場合には、自動的に入力されます。

ユーザ名 : ゾーンのユーザ名を指定します。マイグレーションコンソールを使用してこのゾーンに始めてログインした場合は、何も表示されません。最初でない場合は、最後に使用したユーザ名が表示されます。［*ゾーン*］フィールドで管理ゾーンを選択する場合は、このフィールドには、そのゾーンで最後に使用したユーザ名が自動的に入力されます。

パスワード : パスワードを指定します。サーバの認証を受けるたびにパスワードの入力が必要です。

Web サービスポート : Web サービスポートを指定します。デフォルトポート 443 が自動的に表示されます。

4 接続するには、［*OK*］をクリックします。

5 21 ページのセクション 2.5.2「マイグレーション先の選択」に進みます。

2.5.2 マイグレーション先の選択

マイグレーション先は、ZENworks 11 サーバです。インストール先サーバにログインするには :

1 マイグレーション元を選択していることを確認します。詳細については、20 ページのセクション 2.5.1「マイグレーションソースの選択」を参照してください。

2 マイグレーションコンソールで、［*マイグレーション先*］フィールドの横にあるボタンをクリックします。

3 次のフィールドに入力します。

ゾーン : 管理ゾーンを指定します。これがマイグレーションコンソールを使用してこのゾーンにログインした初回である場合は、なにも表示されません。その後、このダイアログボックスを使用してログインしたゾーンは、ドロップダウンリストに表示されます。

サーバ (DNS 名または IP アドレス): DNS 名または IP アドレスを指定します。このフィールドは、管理ゾーンを［*ゾーン*］フィールドで選択する場合には、自動的に入力されます。

ユーザ名 : ゾーンのユーザ名を指定します。マイグレーションコンソールを使用してこのゾーンに始めてログインした場合は、何も表示されません。最初でない場合は、最後に使用したユーザ名が表示されます。［*ゾーン*］フィールドで管理ゾーンを選択する場合は、このフィールドには、そのゾーンで最後に使用したユーザ名が自動的に入力されます。

パスワード : パスワードを指定します。サーバの認証を受けるたびにパスワードの入力が必要です。

Web サービスポート : Web サービスポートを指定します。デフォルトポート 443 が自動的に表示されます。

ファイルアップロード用 HTTP ポート : HTTP ポートを指定します。デフォルトポート 80 が自動的に表示されます。このフィールドは、管理ゾーンを［*ゾーン*］フィールドで選択する場合には、自動的に入力されます。

4 ［*OK*］をクリックします。

［*マイグレーション項目*］タブに、移行できるオブジェクトグループが表示されます。

5 22 ページのセクション 2.5.3「オブジェクトのマイグレート」に進みます。

2.5.3 オブジェクトのマイグレート

次のトピックでは、各グループのマイグレーションオブジェクトに関する情報を提供します。異なるタイプのオブジェクトを移行する手順は別々に示されますが、一度に移行するオブジェクトのタイプを 1 つに限定する必要はありません。

- 22 ページの 「バンドルの移行」
- 23 ページの 「ポリシーのマイグレート」
- 24 ページの 「デバイスの移行」
- 25 ページの 「割り当ての移行」
- 26 ページの 「設定の移行」

バンドルの移行

ZENworks 11 サーバには、展開したバンドルバージョンだけを移行できます。

Linux 依存バンドルとしてカタログを移行する場合は、カタログ内の各バンドルが新しい Linux 依存バンドルとして移行されます。カタログと同名のバンドルグループが作成されます。ZENworks 11 では、このバンドルグループをカタログの代わりに使用する必要があります。

1 バンドルの移行を成功させるために、11 ページのセクション 2.1「バンドルの移行準備 - プレブートバンドル以外」に記載されている前提条件を完了していることを確認してください。

2 をクリックして、［マイグレーション初期設定］ダイアログボックスにアクセスし、変更したい設定を変更し、［*OK*］をクリックしてマイグレーションコンソールに戻ります。

特定の設定の詳細については、29 ページの第 3 章「マイグレーション初期設定」を参照してください。

3 ［マイグレーションタスク］グループで、［*バンドル*］をクリックします。オブジェクトのリストが［ソース ZLM ゾーン］パネルに表示されます。

4 ［ソース ZLM ゾーン］パネルで、フォルダをナビゲートして、移行するバンドルオブジェクトを見つけます。

5 マイグレーションキューに追加するバンドルオブジェクトを選択します。

- すべてのオブジェクトをマイグレーションキューに移動するには、[ ] をクリックします。
- 1 つのオブジェクトをマイグレーションキューに移動するには、オブジェクトを選択してから、[ ] をクリックします。

<Ctrl> キーまたは <Shift> キーを使用して、複数のオブジェクトを選択することもできます。

[マイグレーションキュー] パネルに、マイグレーション用に選択したオブジェクトが表示されます。オブジェクトをあて先に移動すると、オブジェクト内のすべてのサブフォルダもあて先フォルダに移動されます。

[宛先の ZCM ゾーン] パネルでは、これから移行するオブジェクトを斜体で表示します。移行後は、これらのオブジェクトは標準フォントで表示されます。

6 (オプション) オブジェクトをマイグレーションキューから削除するには、オブジェクトを選択してから、[ ] をクリックします。

7 [*今すぐ移行*] をクリックして、選択したバンドルを移行します。マイグレーションにかかる時間は、バンドルのサイズによって異なります。

[マイグレーションキュー] パネルの [*ステップ*] 列には、オブジェクトのマイグレーションステータスが表示されます。

8 (オプション) プロセスを停止するには、[*キャンセル*] をクリックします。

バンドルのマイグレーションが進行中に [*キャンセル*] をクリックした場合、そのオブジェクトのマイグレーションはキャンセルされません。ただし、後続オブジェクトのマイグレーションはキャンセルされます。進行中のマイグレーションをキャンセルすると、あて先サーバが不安定になり、ダングリングデータとダングリングオブジェクトが発生する可能性があります。

イメージバンドルフラグ設定が設定されている ZENworks 7.*x* Linux Management プレブートバンドルの移行を選択する場合、それらの設定も ZENworks 11 に移行されます。

注 : プレブートバンドルのマイグレーションは失敗しましたが、あて先の場所にバンドルオブジェクトが作成された場合、バンドルを再移行する前に、そのオブジェクトを手動で削除する必要があります。

ポリシーのマイグレート

リモート実行ポリシーとテキストファイルポリシーだけを移行できます。リモート実行ポリシーは、スクリプト実行アクションで Linux バンドルとして移行され、テキストファイルポリシーは、テキストファイルの編集アクションで Linux バンドルとして移行されます。

1 をクリックして、[マイグレーション初期設定] ダイアログボックスにアクセスし、変更したい設定を変更し、[*OK*] をクリックしてマイグレーションコンソールに戻ります。

特定の設定の詳細については、29 ページの第 3 章「マイグレーション初期設定」を参照してください。

2 [マイグレーションタスク] グループで、[*ポリシー*] をクリックします。オブジェクトのリストが [ソース ZLM ゾーン] パネルに表示されます。

3 ［ソース ZLM ゾーン］パネルで、フォルダをナビゲートして、移行するポリシーオブジェクトを探します。

4 マイグレーションキューに追加するポリシーオブジェクトを選択します。

- すべてのオブジェクトをマイグレーションキューに移動するには、［ ］をクリックします。
- 1 つのオブジェクトをマイグレーションキューに移動するには、オブジェクトを選択してから、［ ］をクリックします。

<Ctrl> キーまたは <Shift> キーを使用して、複数のオブジェクトを選択することもできます。

［マイグレーションキュー］パネルに、マイグレーション用に選択したオブジェクトが表示されます。オブジェクトをあて先に移動すると、オブジェクト内のすべてのサブフォルダもあて先フォルダに移動されます。

［宛先の ZCM ゾーン］パネルでは、これから移行するオブジェクトを斜体で表示します。移行後は、これらのオブジェクトは標準フォントで表示されます。

5 (オプション) オブジェクトをマイグレーションキューから削除するには、オブジェクトを選択してから、［ ］をクリックします。

6 ［*今すぐ移行*］をクリックして、選択したポリシーを移行します。

［マイグレーションキュー］パネルの［*ステップ*］列には、オブジェクトのマイグレーションステータスが表示されます。

7 (オプション) プロセスを停止するには、［*キャンセル*］をクリックします。

ポリシーのマイグレーションが進行中に［*キャンセル*］をクリックした場合、そのオブジェクトのマイグレーションはキャンセルされません。ただし、後続オブジェクトのマイグレーションはキャンセルされます。進行中のマイグレーションをキャンセルすると、あて先サーバが不安定になり、ダングリングデータとダングリングオブジェクトが発生する可能性があります。

デバイスの移行

サーバやワークステーションなどのオブジェクトを移行できます。

ZENworks 11 では、次の Linux 配布 (アーキテクチャは x86 または x86_64 のいずれか) だけがサポートされているので、これらの配布をインストールしたデバイスだけを移行できます。

- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10 SP2、SP3
- SUSE Linux Enterprise Desktop (SLED) 10 SP2、SP3
- SLES 11、SLES 11 SP1
- SLED 11、SLES 11 SP1
- Open Enterprise Server (OES) 2 SP2、SP3
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) (AS / ES/ WS) 4.7、4.8
- RHEL 4.6、5.3、5.4、5.5

注 : 次の配布をインストールしたデバイスは、ZENworks 11 でこれらのプラットフォームに ZENworks エージェントを展開できなくても移行できます。

- SLES 10、SLES 10 SP1
- SLED 10、SLES 10 SP1

- OES 2、OES 2 SP1
- RHEL (AS / ES / WS) 4.0、4.1、4.2、4.3、4.4、4.5
- RHEL 5.1、5.2

---

1 をクリックして、［マイグレーション初期設定］ダイアログボックスにアクセスし、変更したい設定を変更し、［*OK*］をクリックしてマイグレーションコンソールに戻ります。

特定の設定の詳細については、29 ページの第 3 章「マイグレーション初期設定」を参照してください。

2 ［マイグレーションタスク］グループで、［*デバイス*］をクリックします。オブジェクトのリストが［ソース ZLM ゾーン］パネルに表示されます。

3 ［ソース ZLM ゾーン］パネルで、フォルダをナビゲートして、移行するデバイスオブジェクトを見つけます。

4 マイグレーションキューに追加するデバイスオブジェクトを選択します。

- すべてのオブジェクトをマイグレーションキューに移動するには、［ ］をクリックします。
- 1 つのオブジェクトをマイグレーションキューに移動するには、オブジェクトを選択してから、［ ］をクリックします。

<Ctrl> キーまたは <Shift> キーを使用して、複数のオブジェクトを選択することもできます。

［マイグレーションキュー］パネルに、マイグレーション用に選択したオブジェクトが表示されます。オブジェクトをあて先に移動すると、オブジェクト内のすべてのサブフォルダもあて先フォルダに移動されます。

［宛先の ZCM ゾーン］パネルでは、これから移行するオブジェクトを斜体で表示します。移行後、オブジェクトは標準フォントで表示されます。

5 (オプション) オブジェクトをマイグレーションキューから削除するには、オブジェクトを選択してから、［ ］をクリックします。

6 ［*今すぐ移行*］をクリックします。

［マイグレーションキュー］パネルの［*ステップ*］列には、オブジェクトのマイグレーションステータスが表示されます。

7 (オプション) プロセスを停止するには、［*キャンセル*］をクリックします。

デバイスのマイグレーションが進行中に［*キャンセル*］をクリックした場合、そのオブジェクトのマイグレーションはキャンセルされません。ただし、後続オブジェクトのマイグレーションはキャンセルされます。進行中のマイグレーションをキャンセルすると、あて先サーバが不安定になり、ダングリングデータとダングリングオブジェクトが発生する可能性があります。

割り当ての移行

バンドル、ポリシー、およびデバイスの割り当てを移行できます。このパネルには、それら移行対象のバンドル、ポリシー、およびデバイスだけが一覧されます。バンドルおよびポリシーに対する割り当てを移行する場合は、これらのオブジェクトの GUID を保持する必要があります。

バンドルとポリシーの GUID を保持する方法の詳細については、29 ページの第 3 章「マイグレーション初期設定」を参照してください。

［デバイス］フォルダのナビゲート中に、デバイスに対する割り当てを見ることができます。オブジェクトの特定の割り当てまたはすべての割り当てのどちらかを移行できます。ただし、割り当てを移行する前に、割り当てのオブジェクトを移行しておく必要があります。

注 : デバイスの割り当てを移行している間は、RHEL デバイスのロゴが SUSE のロゴとして表示されます。

---

1. をクリックして、［マイグレーション初期設定］ダイアログボックスにアクセスし、変更したい設定を変更し、［*OK*］をクリックしてマイグレーションコンソールに戻ります。

   特定の設定の詳細については、29 ページの第 3 章「マイグレーション初期設定」を参照してください。

2. ［マイグレーションタスク］グループで、［*割り当て*］をクリックします。オブジェクトのリストが［ソース ZLM ゾーン］パネルに表示されます。

3. ［ソース ZLM ゾーン］パネルで、フォルダをナビゲートして、移行対象の割り当てオブジェクトを見つけます。

4. マイグレーションキューに移動する割り当てオブジェクトを選択します。

   - すべてのオブジェクトをマイグレーションキューに移動するには、［ ］をクリックします。
   - 1 つのオブジェクトをマイグレーションキューに移動するには、オブジェクトを選択してから、［ ］をクリックします。

   <Ctrl> キーまたは <Shift> キーを使用して、複数のオブジェクトを選択することもできます。

   ［マイグレーションキュー］パネルに、マイグレーション用に選択したオブジェクトが表示されます。オブジェクトをあて先に移動すると、オブジェクト内のすべてのサブフォルダもあて先フォルダに移動されます。

   ［宛先の ZCM ゾーン］パネルでは、これから移行するオブジェクトを斜体で表示します。移行後、オブジェクトは標準フォントで表示されます。

5. (オプション) オブジェクトをマイグレーションキューから削除するには、オブジェクトを選択してから、［ ］をクリックします。

6. ［*今すぐ移行*］をクリックします。

   ［マイグレーションキュー］パネルの［*ステップ*］列には、オブジェクトのマイグレーションステータスが表示されます。

7. (オプション) プロセスを停止するには、［*キャンセル*］をクリックします。

割り当てのマイグレーションが進行中に［*キャンセル*］をクリックした場合、そのオブジェクトのマイグレーションはキャンセルされません。ただし、後続オブジェクトのマイグレーションはキャンセルされます。進行中のマイグレーションをキャンセルすると、あて先サーバが不安定になり、ダングリングデータとダングリングオブジェクトが発生する可能性があります。

設定の移行

システム変数だけを管理ゾーン設定のマイグレーションの一部として移行できます。デバイスレベルの一部であるシステム変数は、デバイスの移行時に移行されます。

2.6 マイグレーション進行状況の監視

- 27 ページのセクション 2.6.1「[マイグレーションログ] タブ」
- 27 ページのセクション 2.6.2「[マイグレーション履歴] タブ」

2.6.1 [マイグレーションログ] タブ

[*マイグレーションログ*] タブには、すべてのマイグレーションイベントの詳細が表示されます。ログファイルには、log ディレクトリからアクセスすることもできます。このディレクトリは、マイグレーションユーティリティの実行ファイルと同じ場所に作成されます。

[*クリア*] をクリックして、表示されている詳細をクリアします。[*再ロード*] をクリックして、マイグレーションログを更新します。

2.6.2 [マイグレーション履歴] タブ

[*マイグレーション履歴*] タブには、次のマイグレーションに関する詳細が表示されます。

- オブジェクトのマイグレーション元のデバイス名と完全なパス
- オブジェクトのマイグレーション先のデバイス名と完全なパス
- オブジェクトを移行した日付
- オブジェクトを移行したユーザ
- オブジェクトのタイプ
- オブジェクトの固有の識別子

[*クリア*] をクリックして、表示されている詳細をクリアします。

2.7 マイグレーションのキャンセル

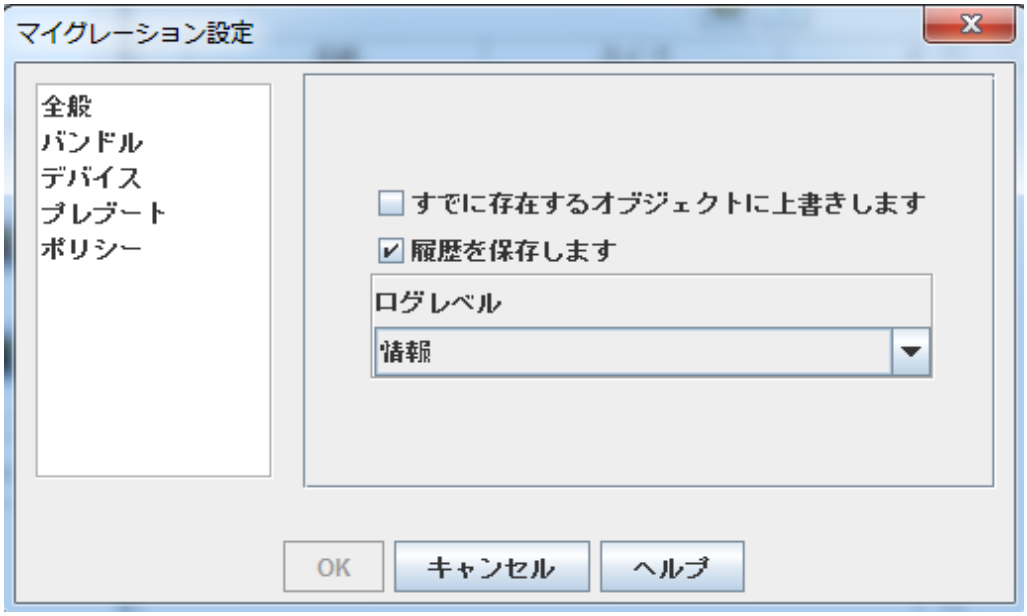
[*キャンセル*] ボタンをクリックすると、マイグレーションプロセスが停止します。[*キャンセル*] ボタンを押したときにすでに移行されているオブジェクトは、ロールバックされません。

オブジェクトのマイグレーションが進行中に、マイグレーションプロセスをキャンセルした場合、進行中のマイグレーションはキャンセルされません。ただし、後続オブジェクトのマイグレーションはキャンセルされます。オブジェクトのマイグレーションが進行中にマイグレーションプロセスをキャンセルすると、インストール先サーバが不安定になり、ダングリングデータが発生する可能性があります。

マイグレーション初期設定 3

マイグレーション初期設定を使用すると、自分の選択を指定できるので、マイグレーションプロセスをカスタマイズできます。

ZENworks Linux Management Migration Utility の アイコンを使用すると、［マイグレーション初期設定］ダイアログボックスが表示され、そのダイアログボックスでマイグレーションの設定を指定できます。一部のカテゴリには初期設定がない場合があります。



次のカテゴリには、初期設定を設定できます。

- 29 ページのセクション 3.1「全般」
- 30 ページのセクション 3.2「バンドル」
- 30 ページのセクション 3.3「デバイス」
- 31 ページのセクション 3.4「プレブート」
- 32 ページのセクション 3.5「ポリシー」

3.1 全般

次の全般設定を設定できます。

すでに存在するオブジェクトを上書きする：このチェックボックスをオンにすると、あて先ゾーンにすでに存在するオブジェクトが上書きされます。バンドルとポリシーについては、マイグレーション後にそれらの GUID が保持される場合のみ、このオプションを適用できます。

バンドルとポリシーの GUID を保持する方法の詳細については、30 ページのセクション 3.2「バンドル」と32 ページのセクション 3.5「ポリシー」を参照してください。

履歴を保存する : このチェックボックスをオンにすると、後で使用するための、オブジェクトのマイグレーション履歴の詳細が保存されます。

ログレベル : 追跡するエラーのレベルを定義するオプションを選択します。ここで指定するレベルによって、ログに記録されるメッセージの種類が決まります。デフォルトでログレベルは、情報メッセージの追跡に設定されています。

3.2 バンドル

バンドルについては、次の初期設定を設定できます。

移行したオブジェクトの GUID を保持する : このチェックボックスをオンにすると、移行後にバンドル GUID が保持されます。

オブジェクトの詳細を表示する : デフォルトでは、この初期設定は選択されていません。このチェックボックスをオンにすると、ソースとあて先のパネルの［*詳細*］列にバンドルに関する追加情報が表示されます。マイグレーションユーティリティでは、各オブジェクトの詳細を取得する必要があるので、バンドルの一覧を表示するのに時間がかかることがあります。

重要 : このチェックボックスを選択すると、プレブートバンドルは表示されなくなります。プレブートバンドルを表示するには、このチェックボックスの選択を解除してください。

Linux 依存バンドルとしてバンドルを移行する : このチェックボックスを選択すると、Linux 依存バンドルとしてバンドルが移行されます。Linux 依存バンドルは、依存パッケージを保存し、それによって、パッケージの依存関係を解決します。

マウントされた ZLM パッケージリポジトリのパス : ZLM パッケージリポジトリがマウントされたパスを指定します。これは、Linux 用プレインストールタスクの実行中に指定したパスです (11 ページの 「Linux 上でのバンドルマイグレーションの前提条件」のステップ 3 参照)。Linux では、デフォルトパスは /mnt/zlm/pkg-repo/ です。Windows では、デフォルトパスは *ZLM_Server_IP_address*\pkg-repo_details_of_the_mapped_drive です。

3.3 デバイス

デバイスについては、次の初期設定を設定できます。

オブジェクトの詳細を表示する (ターゲット別にフィルタ): デフォルトでは、この初期設定が選択され、ZENworks 11 でサポートされていないターゲットを持つデバイスがフィルタされます。ZENworks Linux Management では、ZENworks 11 によってサポートされていないターゲット (SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 9、Open Enterprise Server (OES) 1、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 3 など) をサポートしています。この初期設定を選択解除した場合、マイグレーションツールは ZENworks 11 でサポートされていないターゲットを持つデバイスをフィルタしないので、関連付けられたオブジェクトのマイグレーションが失敗します。

この初期設定を選択したままにすると、ソースパネルとあて先パネルの［*詳細*］列に、それらのデバイスに関する追加情報が表示されます。マイグレーションユーティリティは、各オブジェクトの詳細を取得する必要があるので、デバイスの一覧を表示するのに時間がかかることがあります。ただし、サポートされていないターゲットを持つデバイスを意図的に移行しない場合は、この初期設定を選択解除できます。

3.4 プレブート

プレブートについては、次の初期設定を設定できます。

プレブートファイルを上書きする : このチェックボックスをオンにすると、あて先ゾーンにすでに存在するプレブートファイルが上書きされます。

マウントされた ZLM イメージリポジトリのパス : ZENworks Linux Management Migration Utility がインストールおよび実行されているローカルデバイス上で、ZENworks Linux Management イメージリポジトリをマウントする場所を指定します。Linux ローカルデバイスにイメージリポジトリをマウントする場合は 13 ページのステップ 2a、Windows ローカルデバイスにイメージリポジトリをマウントする場合は 15 ページのステップ 2a を、それぞれ参照してください。

この設定は、ZENworks イメージバンドルとマルチキャストイメージセットバンドルに対してのみ適用できます。DellDTK 設定バンドルに関連付けられたイメージがある場合は、DellDTK 設定バンドルにも適用できます。

マウントされた ZCM イメージリポジトリのパス : ZENworks Linux Management Migration Utility がインストールおよび実行されているローカルデバイス上で、ZENworks Configuration Management コンテンツリポジトリをマウントする場所を指定します。Linux ローカルデバイスにイメージリポジトリをマウントする場合は 13 ページのステップ 2b、Windows ローカルデバイスにイメージリポジトリをマウントする場合は 15 ページのステップ 2a を、それぞれ参照してください。

この設定は、ZENworks イメージバンドルとマルチキャストイメージセットバンドルに対してのみ適用できます。DellDTK 設定バンドルに関連付けられたイメージがある場合は、DellDTK 設定バンドルにも適用できます。指定する場所に、すべてのユーザ用の書き込み権限があることを確認してください。

マウントされた ZLM TFTP のフォルダ : ZENworks Linux Management Migration Utility がインストールおよび実行されているローカルデバイス上で、ZENworks Linux Management TFTP ディレクトリをマウントする場所を指定します。Linux ローカルデバイスに TFTP ディレクトリをマウントする場合は 14 ページのステップ 3a、Windows ローカルデバイスに TFTP ディレクトリをマウントする場合は 16 ページのステップ 3a を、それぞれ参照してください。

この設定は、AutoYaST、Kickstart、および DellDTK の設定バンドルに対してのみ適用できます。指定する場所に、すべてのユーザ用の実行権限があることを確認してください。

マウントされた ZCM TFTP のフォルダ : ZENworks Linux Management Migration Utility がインストールおよび実行されているローカルデバイス上で、ZENworks Configuration Management TFTP ディレクトリをマウントする場所を指定します。Linux ローカルデバイスに TFTP ディレクトリをマウントする場合は 14 ページのステップ 3b、Windows ローカルデバイスに TFTP ディレクトリをマウントする場合は 16 ページのステップ 3b を、それぞれ参照してください。

この設定は、AutoYaST、Kickstart、および DellDTK の設定バンドルに対してのみ適用できます。指定する場所に、すべてのユーザ用の書き込み権限と実行権限があることを確認してください。

ZLM サーバ上のイメージリポジトリのルート : ZENworks Linux Management サーバ (マイグレーション元) 上の、移行するイメージリポジトリの場所を指定します。マイグレーションユーティリティを Linux デバイスで実行する場合は、ZLM イメージリポジトリの samba 共有パスを指定します。マイグレーションユーティリティを Windows デバイスで実行する場合は、ZLM イメージリポジトリのマウントされたドライブを指定します。

この設定は、ZENworks イメージバンドルとマルチキャストイメージセットバンドルに対してのみ適用できます。DellDTK 設定バンドルに関連付けられたイメージがある場合は、DellDTK 設定バンドルにも適用できます。

ZCM コンテンツリポジトリ : ZENworks Configuration Management サーバ (マイグレーション先) 上のコンテンツリポジトリの場所を指定します。マイグレーションユーティリティを Linux デバイスで実行する場合は、/var/opt/novell/zenworks/content-repo/ の samba 共有パスを指定します。マイグレーションユーティリティを Windows デバイスで実行する場合は、%ZENWORKS_HOME%\zenworks\work\content-repo のマウントされたデバイスを指定します。

この設定は、ZENworks イメージバンドルとマルチキャストイメージセットバンドルに対してのみ適用できます。DellDTK 設定バンドルに関連付けられたイメージがある場合は、DellDTK 設定バンドルにも適用できます。

バンドルマイグレーションの一部としてイメージをコピーしない : バンドルの移行時にイメージをコピーしない場合は、このチェックボックスをオンにします。このイメージは、後で、手動コピーできます。この設定は、ZENworks イメージバンドルとマルチキャストイメージセットバンドルに対してのみ適用できます。DellDTK 設定バンドルに関連付けられたイメージがある場合は、DellDTK 設定バンドルにも適用できます。

プレブートバンドルを移行すると、関連のイメージ (ベースイメージまたはアドオンイメージ) とファイル (環境設定またはスクリプト) も移行されます。ZENworks Configuration Management に移行する ZENworks Linux Management プレブートバンドルにイメージまたはバンドルが含まれている場合は、移行した ZENworks Configuration Managementバンドルには各イメージまたは各バンドルが別個のアクションに含まれます。

たとえば、移行する ZENworks Linux Management の ZENworks イメージバンドルにベースイメージとアドオンイメージがある場合、移行した ZENworks Configuration Management の ZENworks イメージバンドルには、イメージのタイプ (ベースとアドオン) ごとに 2 つの新しいアクションが含まれます。

3.5 ポリシー

ポリシーについては、次の初期設定を設定できます。

移行したオブジェクトの GUID を保持する : 移行後にオブジェクトの GUID を保持するには、このチェックボックスをオンにします。

あて先バンドルの詳細を表示する : あて先デバイスでバンドルバージョンやバンドル名などのバンドル詳細を表示させるには、このチェックボックスをオンにします。